

4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4.1. 刊行物

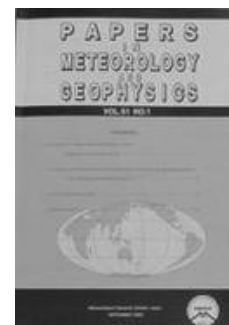
気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム“J-STAGE”に登録し、オンライン発行 (ISSN 1880-6643) とした。

J-STAGE URL : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

なお、令和 6 年度は、気象研究所研究報告の発行はなかった。



気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。気象研究所ホームページで閲覧することができる。

URL : https://www.mri-jma.go.jp/Publish/Technical/index_jp.html

なお、第 72 号をもって冊子での発行は終了し、オンライン発行 (ISSN 2189-8871) のみとなった。

また、令和 6 年度は、気象研究所技術報告の発行はなかった。



4.2. 発表会・主催会議等

気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会であり、毎年1回開催している。

令和6年度は、令和6年12月17日（火）に気象庁講堂（東京都港区）及びオンラインのハイブリッドで開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ① 令和6年能登半島地震による津波の実態解明に向けて
報告者：南 雅晃（地震津波研究部 第四研究室 研究官）
- ② アジアモンスーンと台風の季節予報に関する研究の進展
報告者：高谷祐平（全球大気海洋研究部 第二研究室 主任研究官）
- ③ 進化する突風対策：AIが描く鉄道安全と防災技術の新時代
報告者：楠 研一（台風・災害気象研究部 第四研究室 室長）
- ④ 令和6年9月に能登半島に記録的な大雨をもたらした線状降水帯の発生要因
報告者：末木健太（台風・災害気象研究部 第二研究室 研究官）
- ⑤ 線状降水帯の機構解明のための洋上ドローンと新しい水蒸気観測の取り組み
報告者：瀬古 弘（気象観測研究部 第二研究室 研究官）
- ⑥ 令和6年台風第10号～遅い移動速度と広域にわたる大雨～
報告者：和田章義（台風・災害気象研究部 第一研究室 室長）
- ⑦ 台風進路・強度予測の高精度化を目指した最近の研究紹介
報告者：山口宗彦（応用気象研究部 第三研究室 主任研究官）

第5回環境研究機関連絡会研究交流セミナー

気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び国立研究開発法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する研究交流セミナー（平成15年度～平成30年度までは環境研究シンポジウムを実施）で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。

令和6年度は、11月28日（木）につくば国際会議場において「グリーンイノベーション」をテーマとするセミナーが開催され、気象研究所は以下の発表を行った。

【口頭発表】

- 発表名：気候変動ナショナルシナリオ構築に向けた取り組み
発表者：辻野博之（応用気象研究部 第一研究室 室長）